

1. 評価結果概要表

作成日

平成 20年 8月 27日

【評価実施概要】

事業所番号	4071700555		
法人名	有限会社 王子苑		
事業所名	グループホーム 王子苑		
所在地	福岡県直方市感田1040番地4 〒 822-0001 (電話) 0949-26-4245		
評価機関名	社会福祉法人 福岡市社会福祉協議会		
所在地	福岡市中央区荒戸3-3-39		
訪問調査日	平成20年8月22日	評定確定日	平成20年10月10日

【情報提供票より】(平成 20年 7月 28日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 15年 9月 1日		
ユニット数	1ユニット	利用定員数計	9人
職員数	11人	常勤 9人	非常勤 2人 常勤換算 7.2人

(2) 建物概要

建物構造	軽量鉄骨 造り
	1階建ての～ 1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	33,000円	その他の経費(月額)	円	
敷金	有(円)	無		
保証金の有無(一時金を含む)	有(円)	有の場合償却の有無	有 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日あたり		1,000円程度	

(4) 利用者の概要(3月 1日現在)

登録人数	9名	男性	名	女性	9名
要介護1	0名	要介護2	2名		
要介護3	3名	要介護4	3名		
要介護5	1名				
要支援1	名	要支援2	名		
年齢	平均 85歳	最低 77歳	最高	98歳	

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人一寿会西尾病院 尾野外科胃腸科医院
---------	-----------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

昔ながらの住宅地の中、鎮守の森に見守られた丘陵地にあるホームである。ホーム理念に、尊厳・機能回復・社会参加を掲げ、自治会ボランティアグループに加入しての独居老人宅への支援、散歩時の挨拶、ゴミ置き場の環境整備、近隣の子供たちによるホームへの来所など、利用者・職員・地域との関係づくりを意識した取組みがみられる。生活記録の1枚目に入居当初の記録を綴っておく事により、新しく入職した職員が利用者を知り、利用者との馴染みの関係作りへの手がかりとなるように工夫されている。また、3年以上の継続勤務者が多く在籍し、この1年間で進学のための異動が1名あったが、この職員も非常勤で勤務するなど、馴染みの職員による継続したケアの提供が行われている。今後ますますの利用者・家族の希望に沿ったケアの提供や質の向上が期待できるホームである。

【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4) 前回の外部評価結果について、会議時に報告を行い、内部研修への取組み、作成されていなかったマニュアルの追加作成を行うなどの具体的な改善が見られる。
	今回の自己評価に対する取組み状況(関連項目:外部4) 今回の外部評価にあたり、職員全員が目を通し、協議して自己評価を行うなどの取組みがあり、外部評価のねらいを確実に実践している。
重点項目	運営推進協議会の主な検討内容及びそれを活かした取組み(関連項目:外部4,5,6) 行政担当職員、民生委員、ご家族、職員等の参加のもと、年に3～4回の割合で運営推進会議が開催されている。運営推進会議時に、行政担当職員の方へ介護保険に関する質問が出されたり、民生委員の方より利用者を紹介していただくなどの取組みがある。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部8,9) 家族来苑時の説明と介護記録の提示、その都度のご案内連絡、写真とコメントを添付した“たより”の毎月の送付、四季毎のホーム便りの送付などを通じての報告が行われている。また、介護計画書の説明時に本人・家族の意向を記入していただくなど、様々な場面を通じて意見・意向の把握がある。把握した内容については、会議時に検討するなどの取組みがある。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 自治会ボランティアグループ(おたすけ隊)に加入しての独居老人宅への支援、日々の挨拶、ゴミ置き場の環境整備、近隣の子供たちによるホームへの来所など、地域とのかかわりを意識した取組みがある。

2. 調査報告(詳細)

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
理念に基づく運営					
1 理念の共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続ける ことを支えていくサービスとして、事業 所独自の理念をつくりあげている	ホーム理念は、尊厳・機能回復・社会参加を 軸に置いた理念が作成されており、利用者・職 員・地域との関係づくりを意識したかわりがある。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し理念の 実践に向けて日々取り組んでいる	職員は理念の内容を良く理解しており、具 体的な取組み状況について詳細に説明していただ き、日常のケアの中での取組みの様子が伺え た。		
2 地域との支え合い					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員と して、自治会、老人会、行事等、地域活 動に参加し、地元の人々と交流するこ とに努めている	自治会ボランティアグループ(おたすけ隊) に加入しての独居老人宅への支援、日々の 挨拶、ゴミ置き場の環境整備、近隣の子 供たちによるホームへの来所など、地 域とのかわりを意識した取組みがある。		
3 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及 び外部評価を実施する意義を理解し、 評価を活かして具体的な改善に取 組んでいる	前回の外部評価結果について、会議時に 報告を行い、内部研修への取組みやマ ニュアルの追加作成を行うなどの改善 が見られる。今回の外部評価にあたり、 職員全員が目を通し協議して自己評 価を行う等の取組みがある。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	平成18年8月より年に3～4回の割合で運営推進会議が開催されている。運営推進会議時に、行政担当職員の方へ介護保険に関する質問が出されたり、民生委員の方より利用者を紹介していただくなどの取り組みがある。		
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議への行政担当職員の参加を通じて連携を図っており、介護保険に関する多くの質問が出されるなど、質の向上に向けた取り組みがある。		
7 追加	10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	制度に関する研修等に参加して、会議時に他の職員へ報告を行うなどの取り組みがある。家族へは、制度に関する資料の説明・配布を行うなどの取り組みがある。		
4 理念を実践するための体制					
8 (7)	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族来苑時の説明と介護記録の提示、その都度のごまめな連絡、写真とコメントを添付した“たより”の毎月の送付、四季毎のホーム便りの送付などを通じての報告が行われている。		
9 (8)	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族来苑時の声かけ、各種報告時や家族会等を利用しての意見の聴取が行われている。また、介護計画書の説明時に本人・家族の意向を記入していただくなど、様々な場面を通じて意見・意向の把握がある。把握した内容については、会議時に検討するなどの取り組みがある。		
10 (9)	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	3年以上の継続勤務者が多く在籍し、この1年間で進学のための異動が1名であり、この職員も非常勤で勤務するなど、馴染みの職員による継続した支援が行われている。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5 人材の育成と支援					
11	19 追加	人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員の募集・採用等に関しては、何ら制限は設けていない。本人の意欲や経験、適性を重視しての採用である。職員の資質を見極めて、資格取得のための進学を勧め、進学後は非常勤で継続勤務させるなどの支援体制がある。		
12	20 追加	人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	外部で行われた研修への参加はあるも、全ての職員への人権教育、啓発活動への取り組みはこれからである。		広義においての人権問題は、社会的に問われている現状です。人権に対する認識を深めるため、地域や行政等で行われる講演や学習会へ参加するとともに、事業所内でも勉強会を実施するなどの取り組みを期待します。
13 (10)	21 (19)	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各種研修案内を提示しての外部研修への参加の機会を確保している。月に1度の定例会にて、苑長からの指導や職員が持ち回りで発表するなどの取り組みがある。		
14 (11)	22 (20)	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域にあるグループホームや介護事業所と連携して、職員研修を受け入れたり、他の事業所への研修参加などの取り組みがある。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15 (12)	28 (26)	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	他のグループホームも見学してもらい、体験入居を利用し、当事業所への入所を納得したうえで入所していただいている。また、家族と一緒に宿泊して過ごしてもらうなどの取り組みがある。		
2 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16 (13)	29 (27)	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	料理方法や味付けの仕方、浴衣の着付の仕方など、日々のかかわりの中で学ぶ取り組みがある。利用者と共に食事の後片付けを行うなど、日々のケアの中で分かち合い支えあう関係が伺えた。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1 一人ひとりの把握					
17 (14)	35 (33)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々のかかわりや家族との会話などから、利用者一人ひとりの思いや希望の把握がなされている。把握した思いや希望は、センター方式を利用し職員間での情報共有への取り組みがある。		
2 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18 (15)	38 (36)	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	毎月のケアプラン実行表の確認及びアセスメントチェックにより職員の意見を聞き、日々のかかわりや家族との会話などから本人・家族の意向や思いの把握に努め、担当職員と計画作成担当者による介護計画の作成がある。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
19 (16)	39 (37)	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行う とともに、見直し以前に対応できない変 化が生じた場合は、本人、家族、必要な 関係者と話し合い、現状に即した新たな 計画を作成している	チームケアの観点より、毎月のアセスメント チェックを通じて職員の気づきを出し合い、利 用者本人や家族の意向を確認するなどの取組み がある。また、3ヶ月に1度のケア会議や状況の 変化に応じて、介護計画内容の見直しが行われ ている。		
3 多機能性を活かした柔軟な支援					
20 (17)	41 (39)	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に 応じて、事業所の多機能性を活かした柔 軟な支援をしている	利用者の希望に沿っての1泊旅行、自宅や以 前商売をしていた商店を訪問したり、行きつけ の美容院の利用支援、選挙参加への支援、受診 の付き添いなど、柔軟な支援が行われている。		
4 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
21 (18)	45 (43)	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納 得が得られたかかりつけ医と事業所の関 係を築きながら、適切な医療を受けられ るように支援している	ホーム協力医があり2週間に1度の往診があ る。利用者のかかりつけ医への受診、専門病院 への受診の付き添いなど、各医療機関とも連携 を図りながらの支援がある。		
22 (19)	49 (47)	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方につ いて、できるだけ早い段階から本人や家 族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し 話し合い、全員で方針を共有している	医療連携体制、ターミナル、重度化した場合 における対応などについて、説明・同意を得て いる。センター方式を利用するにあたり、利用 者本人の思いの把握に努めるなどの取組みがあ る。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1 その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
23 (20)	52 (50)	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損 ねるような言葉かけや対応、記録等の個 人情報の取り扱いをしていない	利用者一人ひとりのプライドを尊重した丁寧 な声かけや対応が見受けられた。各種記録類 は、決められた場所で適切に保管されていた。		
24 (21)	54 (52)	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのでは なく、一人ひとりのペースを大切に し、その日をどのように過ごしたいか、 希望にそって支援している	利用者に何をしたいかの希望をとり、その希 望に準じた対応がある。日中の過ごし方、食事 にかかる時間など、利用者個々のペースにあわ せての支援が見られた。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25 (22)	56 (54)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人 ひとりの好みや力を活かしながら、利用 者と職員と一緒に準備や食事、片付けを している	利用者の希望を取り入れながら1週間分のメ ニューを作成し、ホームで調理している。食事 の下準備や後片付けを職員と利用者が一緒 に行っており、職員は利用者と一緒にテー ブルを囲み、和やかな雰囲気であった。		
26 (23)	59 (57)	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしま わずに、一人ひとりの希望やタイミン グに合わせて、入浴を楽しめるように支 援している	週3日、入浴日を設定している。入浴を拒否 された場合は、無理強いせず清拭で対応し、次 の機会に対応するなどの支援がある。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27 (24)	61 (59)	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせる ように、一人ひとりの生活歴や力を活か した役割、楽しみごと、気晴らしの支援 をしている	食事の下ごしらえや準備、食器洗い、洗濯物 たたみ、新聞を読む、希望による外出・外食な ど、利用者の希望や出来る事に着目しての支援 がある。		
28 (25)	63 (61)	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひ とりのその日の希望にそって、戸外に出 かけられるよう支援している	日常的な散歩やドライブ、利用者の希望によ る喫茶ルームや行きつけの美容院の利用、図書 館や自宅訪問、年に1度の泊りがけでの旅行な ど、積極的に戸外へ出かけている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
29 (26)	68 (66)	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中 玄関に鍵をかけることの弊害を理解して おり、鍵をかけないケアに取り組んでい る	日中は開錠している。業務マニュアル中に施 錠についての取決めが記されている。現在、外 出傾向の強い利用者はいないが、以前、自宅へ 戻り近隣住民の声かけ・説得によりホームに帰 苑する事例があるなど、近隣住民の見守りが得 られている。		
30 (27)	73 (71)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜 を問わず利用者が避難できる方法を身に つけ、日ごろより地域の人々の協力を得 られるよう働きかけている	ホーム独自の年に2回の避難訓練への取組 みが行われている。民生委員の方がホーム近隣 に在住しており、日常的な交流を通じて、災害 時の協力体制は出来ている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31 (28)	79 (77)	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一 日を通じて確保できるよう、一人ひとり の状態や力、習慣に応じた支援をしてい る	メニューは利用者の希望を聞き、栄養バラ ンスを考慮しながら作成している。おおよそ1日 1500～1600 [*] kcalを目安に、食事、水分摂取量 の把握と記録、情報を共有しながらの適切な支 援がある。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2 その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
32 (29)	83 (81)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台 所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者 にとって不快な音や光がないように配慮 し、生活感や季節感を採り入れて、居心 地よく過ごせるような工夫をしている	ホーム内は、自然光を採り入れる工夫がなさ れており、飾り棚には絵画を飾るなど、明るく 快適な空間であった。また、和室には掘りごた つがあり、古いラジオや柱時計、三味線、桐の 飾りケースなどを配し、利用者の方にとって懐 かしい空間づくりへの工夫がなされていた。		
33 (30)	85 (83)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や 家族と相談しながら、使い慣れたものや 好みのものを活かして、本人が居心地よ く過ごせるような工夫をしている	居室には、趣味の本や机、箏箏、テレビ、タ ペストリーが飾られるなど、利用者一人ひとり がゆっくと過ごせる居室となっていた。		

は、重点項目。
(数字)は、国の標準例による番号